

# 野生鳥獣被害に負けな い集落を目指して

～ 小谷村 島・塩坂集落での取組み ～

# これまでの経過

## 『被害の経過』

- “作っても”“作っても”夏野菜を中心に食べられ  
耕作意欲減退 ⇒ 耕作放棄地となる。
- 個々で野生鳥獣対策は、“経費”の問題もあるが  
精神的にも疲れる。



## 『地元の要望』

- 集落での協働圃場を造成し、集中的に被害対策  
を実施したい。
- 耕作意欲を回復させ、活力ある集落を目指したい。

小谷村 ⇒ 同じ問題を抱える集落営農のモデル

# 被害対策

協働圃場に電気柵を利用する『集落営農』の取組みに複数の防除対策を組み合わせる！

協働圃場造成(H20)

⇒ 小谷村直営基盤整備事業

電気柵設置(H21)

⇒ 地域発元気づくり支援金事業

サル追払い対策(小谷村全域)(H21)

⇒ 緊急雇用対策事業

緩衝帯整備(小谷村全域)(H20)

⇒ 森林づくり県民税活用事業

対策チーム  
小谷村  
集落住民

助言 ↑ 指導

クマ対策員

# 協働圃場造成

協働圃場検討状況



集落リーダーが地元要望を行政に  
・耕作放棄地を解消、鳥獣の温床解消  
・みんなで力を会わせて「鳥獣に負けない  
集落営農」

- ・村の重機で開墾した。
- ・集落も作業に参加した。

協働圃場造成作業状況



協働圃場造成作業状況



造成前



造成後



造成後



個人農地であるが、境なしで、  
みんなで作業する。

区の集会で話し合い

- ・・・耕作放棄地解消
- ・・・集団圃場
- ・・・電気柵で囲おう



小谷村へ要望

(意欲のあるリーダーが  
中心)

# 電気柵設置

電気柵設置作業前



電気柵設置作業中



電気柵設置完了



## 構造留意点

- ・サル、イノシシ、ハクビシン等複合的に防除できること
- ・豪雪地帯であるので、冬の撤去及び春の設置が簡単であること

# 電気柵施工のポイント

エキスパンド  
を縫い合わ  
せる



支柱を塩ビにはめ込む



支柱と横パイプをフックで連結



埋設部は、しっかり固定する

# 電気柵「冬の対応」



電線部は撤去



支柱は抜かない



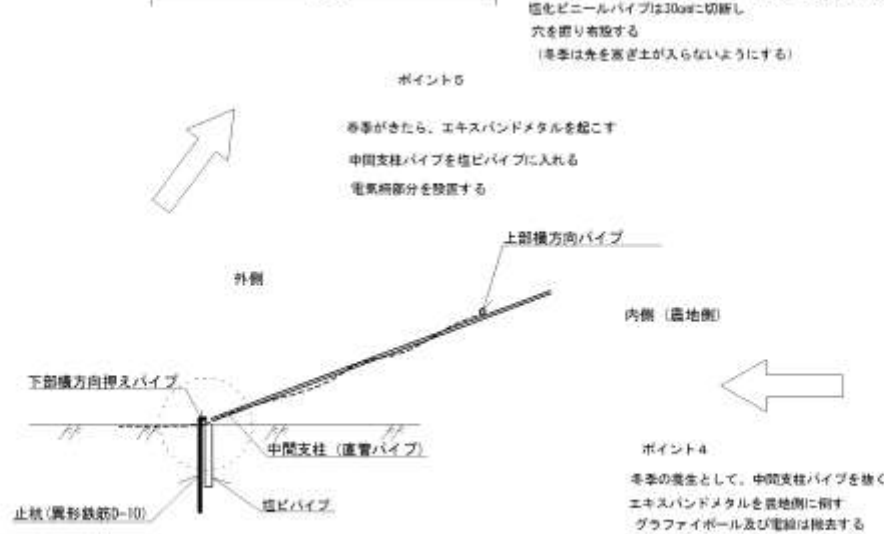
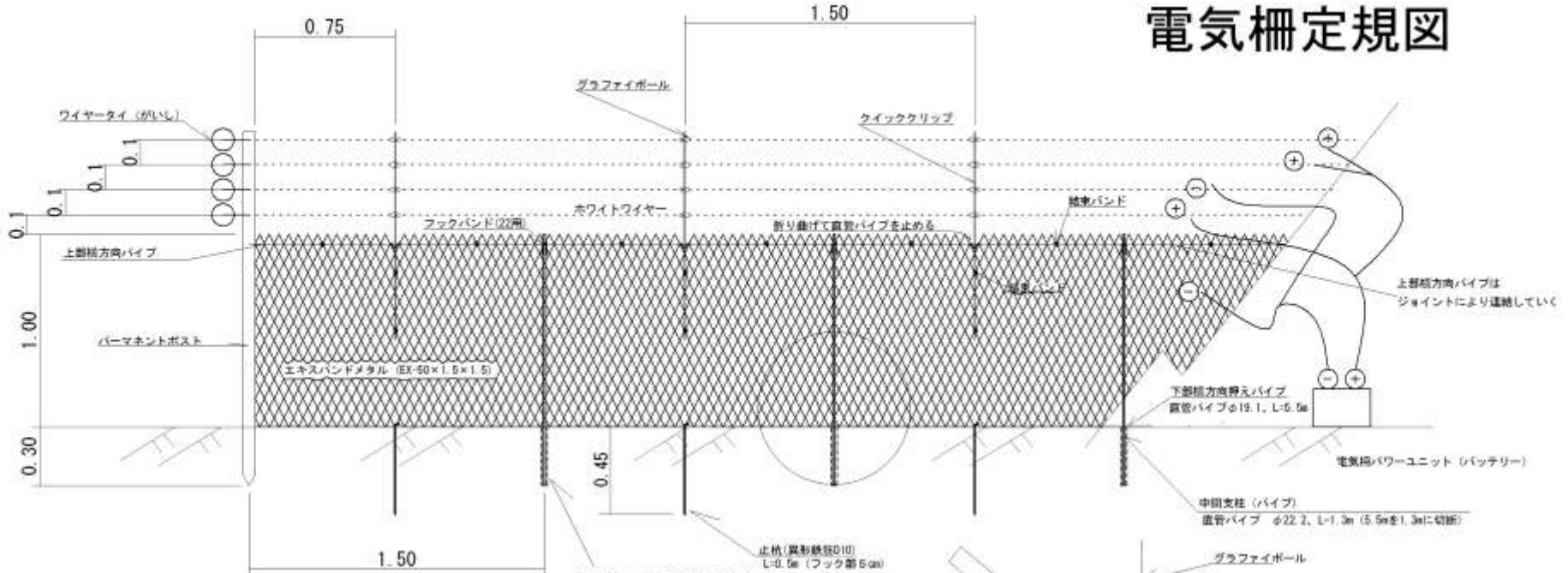
農地に伏せる



作業完了



# 電気柵定規図



**2350円/m**

**設置は重作業**

**冬対応は軽作業**

# サル追払い

## 小谷村全域の対策



### サル調査体制検討会 (H21,3,25)

※泉山准教授(クマ対策員)、対策チーム、役場、サル巡視員

※発信機の装着、サル生息状況調査方法など打合せ

### サルに発信機を装着 (H21,4,11)

※サル巡視員9名を3名で3班体制にし、4月～11月までの間、受信機を利用して毎日巡視活動

※サル巡視員による追払いも効果的であった。



# 有害鳥獣対策講習会

小谷村役場(1月26日)



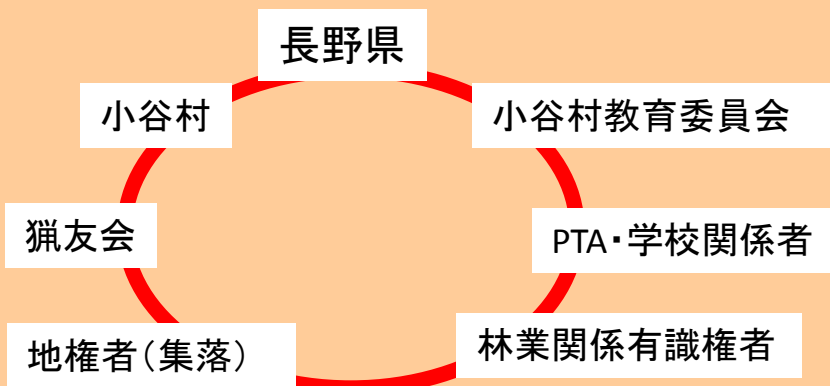
- ・小谷村には3群のサルの群れがある
- ・2つの群れのサルに発信機を装着した
- ・行動範囲や生態、対策など講習

# 緩衝帯整備

## 小谷村全域の対策

- 小谷村里山整備推進協議会

### 小谷村里山整備推進協議会の設立



### 事業実施主体

整備実施団地指定

里山整備施業計画策定

整備業者との契約

里山は筆が小さく  
この作業が大変

団地の設定  
地権者との調整  
施業内容の決定など

里山整備希望集落

加入必要

連携

施業内容の審査  
整備事業の実施  
施業業者の決定  
事業主体としての事務  
個人負担なし『協議会で負担』

## 作業前



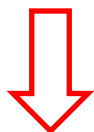
※4月から集落で打合せ開始

※島・塩坂集落では6～7月に  
緩衝帯整備を実施

※実施面積 : 8.27ha

※地元負担金はゼロ

- ※ 鳥獣被害対策
- ※ 景観向上
- ※ 限界集落のイメージ払拭

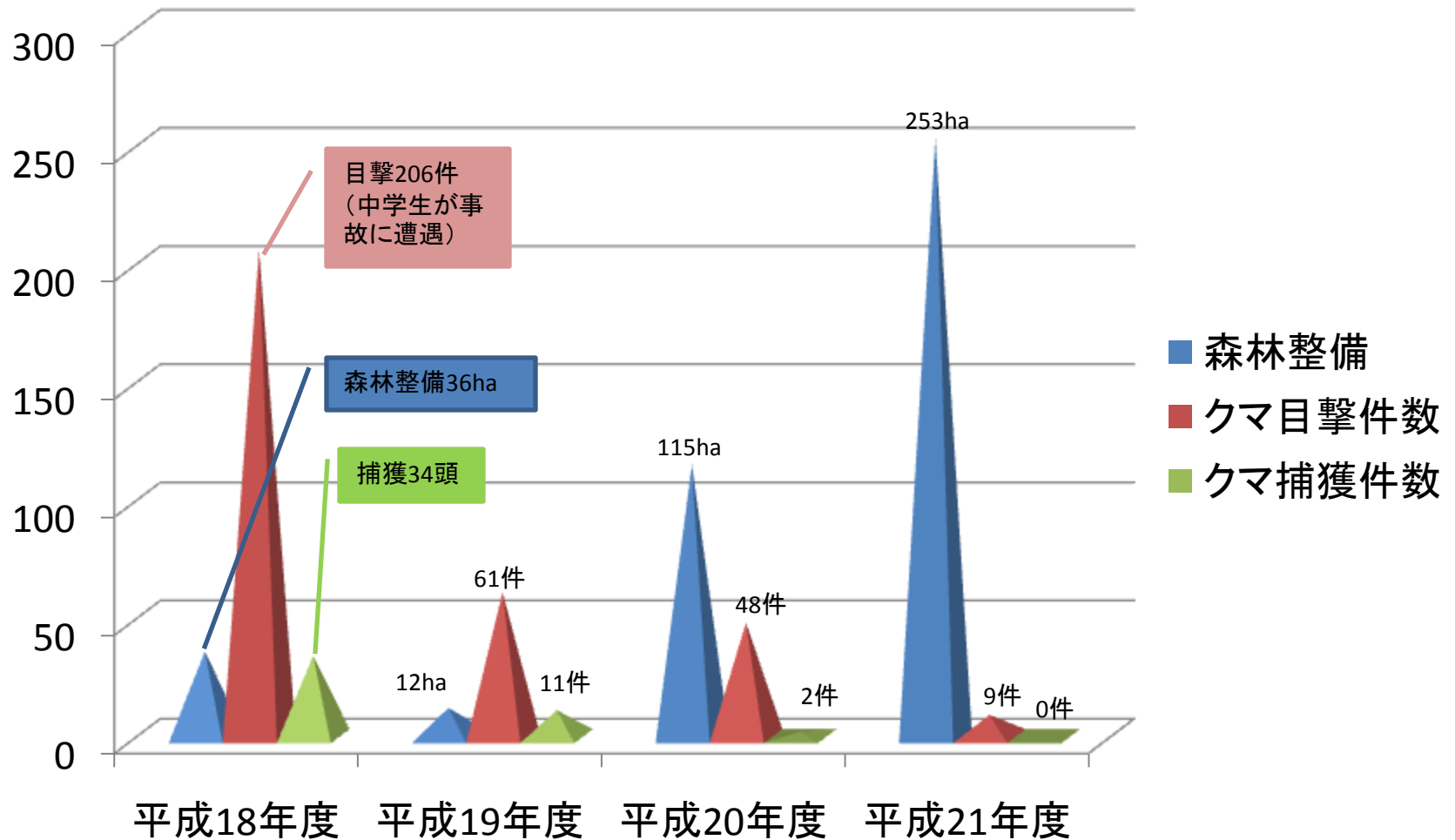


明るい集落になった  
(地元も大喜び)

## 作業後



# 小谷村のクマ出没と森林整備について



## 効果

- 協働圃場造成により、耕作放棄地を再生した。
- 電気柵により、野生鳥獣被害の発生が無かった。
- 協働作業することにより、集落の結束が高まり、耕作意欲もわいた。
- サル巡視活動により、サルの行動範囲が判明し、追払い作業が効率的になった。
- 緩衝帯整備により、野生鳥獣被害が軽減した。  
また、景観もよくなり、明るい集落になった。

## 苦勞した点

- 電気柵について、既製品がないので構造を検討するのに苦勞した。
- 施工も、手探りで行ったため、追加して部材を注文したり、日数も費やした。

## 反省すべき点

- 電気柵設置は小谷村住民から公募し、研修会形式で行う予定であったが、構造検討に時間を費やし研修会形式で行えなかった。
- 造成法面が雨水により、泥水となり集落へ流入したので、花を植えればよかった。



# これからの課題

## 「島・塩坂集落」

- ・電気柵の春の再設置が手際よく実施できるか検証して行く。
- ・将来ビジョンに向けた営農計画を立てる。
  - ⇒ 道の駅が近いので出荷していく(作付の工夫)
- ・更なる合意形成と組織化
  - ⇒ 担い手(定年退職により農作業への参加者が増える)

## 「小谷村全体」

- ・各被害集落へサル生息情報調査結果の報告と、島・塩坂集落の取り組みのPRをして行く。
- ・緩衝帯整備の推進と合わせ、集落で受信機を利用したサル追払い体制を検討して行く。



対策チームの支援活動を推進して行く！！